

群青

助川 信彦

群青は平山郁夫の色にして瀬戸内海の潮に由来す

育ち盛りの郁夫空腹忘れむと海と魚の絵を描き暮らす

運命の八月六日遂に来て平山郁夫火達磨となる

空を見ればもこもこと茸の形せる雲立ち昇る原子雲なり

十五歳の郁夫の体験地獄界そのままを描きし「ヒロシマ生変図」

白馬求法の旅を重ねし玄装に思ひを託す平山郁夫

朝明けの長安大雁塔の上空に巨鳥舞ひ飛び暫く去らず

ナールランダの精舎の上の満月に輝らされて立つ玄装三蔵

玄装の頂骨の一部が日本に贈られ薬師寺に奉安されぬ